



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社オーケーエム 上場取引所 東  
 コード番号 6229 URL <https://www.okm-net.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 奥村 晋一  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役上席執行役員管理統括本部長 (氏名) 木田 清 (TEL) 077(518)1260  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	6,640	8.3	630	39.5	612	51.3	449	△30.2
2022年3月期第3四半期	6,131	△5.4	452	△50.6	404	△54.1	643	4.9

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 830百万円(10.9%) 2022年3月期第3四半期 748百万円(29.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	99.41	99.11
2022年3月期第3四半期	142.34	141.63

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	12,920	9,147	70.8
2022年3月期	12,365	8,520	68.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 9,147百万円 2022年3月期 8,520百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	12.3	820	23.8	885	22.1	520	△38.8	115.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期3Q	4,519,700株	2022年3月期	4,519,700株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年3月期3Q	26株	2022年3月期	26株
------------	-----	----------	-----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期3Q	4,519,674株	2022年3月期3Q	4,519,674株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来性に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症については、欧米主要国でウィズコロナを前提とした経済の正常化が進んでいるものの、中国ではゼロコロナ政策の終了に伴い感染者数が急速に拡大しており、今後世界への影響が懸念されます。また、ウクライナ紛争は終息する気配がなく、依然として世界的に資源・エネルギー価格が高止まりしており、欧米ではインフレの加速や政策金利の引上げ等により景況感が悪化する等、先行きに対する不透明感が続いております。

わが国経済におきましては、新型コロナウイルス感染症については、第8波の到来により感染者数は増加傾向にあるものの、行動制限が緩和されたことで経済社会活動の正常化が一層進みました。一方、急激な為替の変動やウクライナ紛争を背景とした資源・エネルギー価格の高騰、世界的なインフレ圧力に伴う物価の上昇等は継続しており、引き続き予断を許さない状況にあります。

このような状況の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間における国内外の販売活動は、陸用の売上高につきましては、石油化学関連向けを中心に伸長しました。また、舶用の売上高につきましても、船舶排ガス用バルブを中心に前年同期を上回りました。また、販売価格の改定も増収に寄与した結果、全体の売上高は前年同期を上回りました。

なお、船舶排ガス用バルブにつきましては、従来製品の構造を見直し、性能はそのままにコンパクト化、軽量化を実現したモデルチェンジ機「ExV MARK II」の販売を2022年4月から開始し、更なる競争優位性を確保して、世界シェアNo.1の維持に取り組んでおります。加えて、当社中国子会社の奥村閥門（江蘇）有限公司にて製造した船舶排ガス用バルブを、現地に適した製品にカスタマイズして「地産地消」で販売する体制づくりにも取り組んでおります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における受注高は7,830百万円（前年同期比11.9%増）、売上高は6,640百万円（前年同期比8.3%増）となりました。

利益面におきましては、営業利益は、原材料価格の高止まり等による売上原価の増加、販売費及び一般管理費の増加はあったものの、売上高が増加したことや販売価格改定の取り組み効果等により630百万円（前年同期比39.5%増）となりました。

経常利益は、為替相場の変動に伴い前年同期に計上した為替差益が当期は為替差損に転換したものの、営業利益が増益となったことや支払利息の減少、また、前年同期に計上した特別調査関連費用が当期は計上されなかったこと等から612百万円（前年同期比51.3%増）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益は増益となったものの、前年同期に計上した当社中国子会社の蘇州奥村閥門有限公司に対する補助金を主とした補助金収入が当期は計上されなかったことから449百万円（前年同期比30.2%減）となりました。

市場区分別の経営成績は、次のとおりであります。

#### ①陸用市場

首都圏の超高層ビルや国内半導体工場の増産投資に伴い建築設備向けの需要が堅調に推移した他、石油化学設備向けの需要も伸長したことにより受注は回復し、売上高も増加しました。

これらの結果、受注高3,913百万円（前年同期比14.1%増）、売上高3,308百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

#### ②舶用市場

世界的な海外貨物量の増加に伴い造船向けの需要が拡大したことや、船舶排ガス用バルブが環境規制対応船の建造比率の継続的な高まりを受けて堅調に推移したこと等により受注高、売上高ともに増加しました。また、ガス燃料船の需要拡大に伴い、極低温用ハイパフォーマンスカタフライバルブ（「LNG用バルブ」）の受注も増加しました。

これらの結果、受注高3,917百万円（前年同期比9.8%増）、売上高3,331百万円（前年同期比10.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比べ555百万円増加し12,920百万円となりました。これは主として、現金及び預金が624百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が148百万円減少した一方、棚卸資産が952百万円、電子記録債権が343百万円増加したこと等によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ72百万円減少し3,772百万円となりました。これは主として、電子記録債務が197百万円、支払手形及び買掛金が97百万円増加した一方、未払法人税等が210百万円、長期借入金が124百万円、賞与引当金が11百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ627百万円増加し9,147百万円となりました。これは主として、利益剰余金が245百万円、為替換算調整勘定が377百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年9月15日に公表いたしました数値に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,480,763	2,856,592
受取手形、売掛金及び契約資産	1,507,964	1,359,623
電子記録債権	431,347	774,531
棚卸資産	2,398,895	3,351,801
未収消費税等	54,432	60,940
その他	53,580	76,948
貸倒引当金	△1,477	△1,721
流動資産合計	7,925,506	8,478,716
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,657,307	2,667,204
土地	695,712	711,772
建設仮勘定	32,238	34,455
その他（純額）	636,773	572,428
有形固定資産合計	4,022,032	3,985,860
無形固定資産	190,519	197,980
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	47,440	35,456
その他	180,276	222,765
投資その他の資産合計	227,716	258,222
固定資産合計	4,440,268	4,442,063
資産合計	12,365,775	12,920,779

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	387,248	484,298
電子記録債務	604,333	801,955
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	217,584	207,618
未払法人税等	262,793	51,912
契約負債	6,983	3,989
賞与引当金	200,303	188,785
製品保証引当金	32,409	66,652
その他	355,328	347,402
流動負債合計	2,166,984	2,252,614
固定負債		
長期借入金	1,363,861	1,239,340
繰延税金負債	133,362	138,935
資産除去債務	41,892	42,385
その他	139,398	99,709
固定負債合計	1,678,515	1,520,372
負債合計	3,845,499	3,772,987
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,178,196	1,178,196
資本剰余金	1,108,196	1,108,196
利益剰余金	6,140,966	6,386,872
自己株式	△48	△73
株主資本合計	8,427,311	8,673,192
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,968	7,864
繰延ヘッジ損益	1,500	-
為替換算調整勘定	89,495	466,736
その他の包括利益累計額合計	92,964	474,600
純資産合計	8,520,275	9,147,792
負債純資産合計	12,365,775	12,920,779

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	6,131,668	6,640,040
売上原価	3,886,137	4,138,869
売上総利益	2,245,530	2,501,170
販売費及び一般管理費	1,793,419	1,870,255
営業利益	452,111	630,914
営業外収益		
受取利息	3,874	8,679
受取配当金	1,136	2,036
為替差益	10,136	-
補助金収入	-	10,910
保険解約返戻金	30,209	-
その他	20,000	17,669
営業外収益合計	65,357	39,295
営業外費用		
支払利息	21,398	12,102
為替差損	-	27,849
電子記録債権売却損	9,254	16,748
貸倒引当金繰入額	31	5
特別調査関連費用	70,247	-
その他	11,988	1,391
営業外費用合計	112,920	58,098
経常利益	404,547	612,111
特別利益		
固定資産売却益	6,871	4,407
補助金収入	589,168	-
特別利益合計	596,040	4,407
特別損失		
固定資産売却損	-	94
固定資産除却損	109,287	-
減損損失	4,382	-
特別損失合計	113,670	94
税金等調整前四半期純利益	886,917	616,424
法人税等	243,567	167,133
四半期純利益	643,350	449,291
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	643,350	449,291

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	643,350	449,291
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,583	5,895
繰延ヘッジ損益	436	△1,500
為替換算調整勘定	107,744	377,240
その他の包括利益合計	105,597	381,635
四半期包括利益	748,947	830,927
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	748,947	830,927
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大に伴う仮定について、重要な変更はありません。

なお、今後の状況の変化によっては、当社グループの財政状態、経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。